

鹿児島の動物35

晩秋のバードウォッチング入門

動物担当 山元 幸夫

出水平野に「冬の使者」の第一陣が舞い降りました。いよいよ、秋は終盤へと向かいます。すでに夏鳥の多くは南の国へ旅立ち、替わって北の国から鹿児島で越冬するために多くの冬鳥がやってきました。また、渡りの途中で一時的に鹿児島に立ち寄った旅鳥の姿も見られます。晩秋のバードウォッチングの楽しみは、半年ぶりに帰ってきた冬鳥や、期間限定の旅鳥たちとの出会いにあります。さあ、双眼鏡と図鑑を携えて、バードウォッチングに出かけましょう。

(1) じっくり見られる「水辺」の野鳥

池や河口・干潟などの水辺では、同じ場所で同時に多くの種類の野鳥を観察できます。しかも、エサ採りや羽づくろいなど、いろいろな行動もじっくり観察できるので、バードウォッチングを始めるには最適の場所です。特にカモ類は種類が多く、カルガモ、マガモ、ヒドリガモ、コガモ、オナガガモなどは普通に見られます。また、場所によってはハシビロガモ、ヨシガモ、オカヨシガモなども見られます。カモ類の雌はど



オナガガモの雌(左)雄(右)

の種もよく似ていて識別は難しいですが、体の大きさ、羽の色や模様、くちばしの色など、細かく図鑑と見比べながら名前を調べてみましょう。自分で調べて名前が分かったときの喜びは、何にも代え難いものがあります。水辺での観察では、鳥に近づけないことが多いので双眼鏡の他に望遠鏡があれば便利です。

(2) 探しやすい「農耕地」の野鳥

田んぼや畑などの農耕地でも多くの野鳥が見られます。しかも、見晴らしが良いので探しやすいのです。ハクセキレイ、タヒバリ、アマサギ、タゲリ、ヒバリ、カワラヒワ、ミヤマガラスなどは普通に見られます。ミヤマガラスの大群の中に、しばしば白黒模様



コクマルガラス

のコクマルガラスが混じっていることがあります。また、農耕地ではチョウゲンボウ、コチョウゲンボウ、ハヤブサ、ノスリ、チュウヒなど、憧れの猛禽と出会える楽しみがあります。運が良ければ、エサを捕獲する場面が見られるかもしれません。猛禽類は数が少なく、年によって飛来状況も異なるので情報入手してから行くのが得策です。



チョウゲンボウ(若い雄)

(3) 待ち伏せして見る「林や森」の野鳥

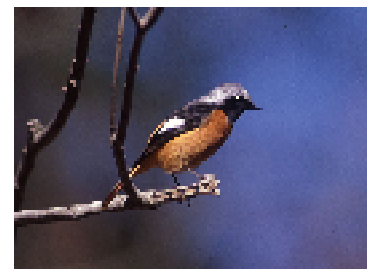
見晴らしが悪い林や森で、鳥を見る方法の1つは、実のなっている木の所で待つことです。エサが乏しくなる晩秋から冬にかけては特に有効な方法です。野鳥は熟したハナミズキ、マユミ、クロガネモチなどの赤い実や、カラスザンショウ、ハゼノキ、ネズミモチ、クスノキなどの黒い実を好んで食べます。



アカハラ(雄)

このような実がなる木には、ヒヨドリやメジロ、キジバト、ツグミ、シロハラなど多くの野鳥が集まってきます。中でも、10月下旬から11月中旬にかけては、カラスザンショウの木にやってくるムギマキ、アカハラ、マミチヤジナイ、マミジロなどの旅鳥たちと、この時期限定の短い出会いを楽しめます。

以上、バードウォッチングの代表的な対象種と場所を紹介してきましたが、何もこれにこだわる必要はありません。街中の公



ジョウビタキ(雄)

園でもメジロ、コゲラ、シジュウカラ、エナガなどの留鳥やハクセキレイ、ジョウビタキなどの冬鳥がよく見られます。冬鳥はこれから春先まで滞在するので、是非、散歩がてらにバードウォッチングを楽しんでください。